

東日本大震災の被災地の様子をサミット参加者に説明するタビオ奈良の担当者

2011 全国コットンサミット IN 岸和田



サミットに出展した地域、企業の綿製品を見学する参加者



大阪発 羅針盤

地域の取り組みや課題、人々の動きや思いを通して大阪の明日、日本の未来を展望します。

ガチャガチャ、カラカラカラと響いた機織りの音は今は昔。衰退した国産綿の復活を目指した5月21日の「全国コットンサミット in 岸和田」は、東日本大震災で津波にのまれた農地を綿花栽培の「塩抜き」によって支援する意向も確認した。温かな輝きを放って揺れる綿花を「再生」の象徴に一。綿作りに取り組む地域が共有した理念の具現化が、次のステップになる。

(深田巧)

全国コットンサミット in 岸和田

■発展の陰

サミットで示された国別の綿花生産量は、中国685万8千ト、インド505万1千ト、米国265万6千ト、パキスタン202万5千トの順で、この上位4カ国が世界の8割を占める(2009年8月10日7月)。
一方、江戸時代に各地に広がったとされる国内の綿花栽培だが、「商業生産になっていない」(近藤健一サミット実行委員長)のが現状。衰退の背景として関係者が指摘するのが、1896(明治29)年4月施行の綿花輸入関税撤廃法だ。

従来通りの農業国でいくか、工業立国に踏み切るべきか。「農・工相克」の結果は、「貿易優先的工業立国の宣言」ののろしと「綿と木綿の歴史」(武部善人著)にある。
それでも、国内の綿作りは数々と続いたが、戦後、ナイロンなどの合成繊維が台頭。急速に広がった代替品に押され、国産綿は経済発展の陰に隠れてしまった。

■天然繊維拡大へ

「和泉木綿」の伝統を受け継ぐ

被災地支援につなげる 国産綿復活を目指す

地域・企業の連携重要

8千トに上る。合成繊維の原料になる石油の枯渇を防ぐため、天然繊維である綿のシェアを現在の34%から60%に広げる必要があるといふ。
地域や産業の再生、環境保全を念頭に置いたサミットだが、国産綿の衰退によって失われた技術や販路の確保などの課題を解決する

大阪・泉州地域の岸和田市で開かれたサミットは、バブル崩壊後の地域の魅力再発見、中国や東南アジアの追い上げで苦境に立つ繊維産業の模索に加え、有機栽培の綿「オーガニックコットン」が注目を集めるように、高まる自然志向を踏まえた試みだ。
近藤委員長によると、世界の人口が70億人を超す2050年に必要な繊維商品は現状を千ト上回る

ためには、参加した地域、企業間の情報交換や共同事業などが欠かせない。

■連帯の強化、拡大を

被災地の支援についても、この連携が重要になる。
海水中に含まれる食塩のナトリウムが多過ぎると綿は枯れるが、綿はアルカリ性に比較的耐える。「塩漬積土壌と農業」(日本土壤肥料学会編)には、作物の耐塩性について、綿は「弱」、綿は「極強」に該当するといふデータも載っている。

そこで、サミットに参加した靴下製造販売業のタビオ奈良(奈良県大和町)、被災した宮城県で綿花の試験栽培を始め、実現すれば「植える種を無償で提供する」意向を示した。植えた綿の根が水と一緒に塩を吸い上げ、「3年後には塩を除去できる」と想定している。

コメだけでなく、「東北」産のオーガニックコットンを市場に流通させ、被災地の復旧・復興につながる構想は繊維業界だけでなく、綿花栽培に地道に取り組んできた産地の技術を含めた協力が欠かせない。

被災地はがれきりや汚泥に覆われ、「それどころではない」としても、いずれは新たな手立が必要になる。その時に備え、サミットに参加した地域、企業は連帯を強め、広げるべきだろう。
来年は「伯州綿」の産地の鳥取県境港市でサミットが開かれる。国産綿を復活し、被災地を支援する「再生」に向けた息の長い取り組みに期待したい。

コットンサミット参加団体活動一覧

- 【こっとなふぁーむ花畑鮮花(北海道小樽市)】
ビニールハウスで綿花を栽培。有機綿の栽培、生産を目指す。
- 【信州大学繊維学部(長野県上田市)】
先進繊維工学課程2年生が綿花栽培の実験を進行中。
- 【タビオ奈良(奈良県大和町)】
3畝の休耕地に綿花を栽培し、シルバー人材を活用。
- 【村上メリヤス(奈良県大和高田市)】
和綿産地としての新たな創造を探る。
- 【河内木綿藍染保存協会(大阪府八尾市)】
河内木綿文様藍染の美を追求。
- 【大地のぬくもりコットンボール銀行(兵庫県西脇市)】
オーガニックコットン製品とその製造・リサイクル方法の普及を目指す。
- 【鳥取県境港市】
荒廃農地1・5畝を活用して国産綿の製品化に努力。伯州綿の復活を目指す。
- 【讃岐三白綿の郷推進協会(香川県観音寺市)】
伝統地場産品の「讃岐三白」の一つ、棉(綿)の栽培を通してまちおこし、文化伝承に努める。
- 【夢つむぎ会(大阪府岸和田市)】
きしわだブランドの創出を通して繊維産業の活性化を目指す。

岸和田市が舞台

■NHK連ドラ「カーネーション」



コシノユマさんと対談する近藤健一サミット実行委員長

全国コットンサミットが開かれた岸和田市は、10月3日放送開始のNHK連続テレビ小説「カーネーション」の舞台。物語のモデルになった故小篠綾子さんの孫で、ファッションデザイナーの小篠ゆま(コシノユマ)さんもサミットに参加し、綾子さんの思い出を語った。
ユマさんの母、コシノヒロコさん(パトリシアデザイナー)が、サミット会場へのビデオレターを通して「肝玉母ちゃんだった」と綾子さんを回想すると、ユマさんは孫の視点で「先見性を持った女性」と評価した。

サミット実行委員長の近藤健一さんと対談したユマさんは、被災地へのコットン支援に協力する意向も示した。
「カーネーション」は、日本のファッションデザイナーの草分けとして活躍し、やがて女手ひとつで3人の娘を世界的ファッションデザイナーに育て上げたヒロインの物語。大正から昭和、平成までを「だんじり魂」で駆け抜けた生涯を描く。

ヒロイン役の尾野真千子さんは、1997年のカンヌ国際映画祭カメラ・ドール受賞作品「萌の朱雀」で主演デビューした。奈良県出身の29歳。
ほかに、小林薫さん、麻生祐未さん、正司照枝さん、宝田明さん、十朱幸代さんが出演する。